

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成22年3月29日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0173700246		
法人名	有限会社グッドライフ		
事業所名	グループホームアウル		
所在地	〒052-0014 伊達市舟岡町337-1 (電 話) 0142-21-1680		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成22年2月25日	評価確定日	平成22年3月29日

【情報提供票より】 (平成22年1月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和 <del>(平成)</del> 14年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 16人, 非常勤 2人, 常勤換算	17.2人

### (2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	2階建ての	1～2 階部分	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	15,000～20,000 円
敷 金	① (90,000 円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円) ②	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

### (4) 利用者の概要 ( 2月25日現在 )

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名
要介護3	4 名	要介護4	6 名
要介護5	3 名	要支援2	0 名
年齢	平均 85.4 歳	最低 73 歳	最高 93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	聖ヶ丘病院 三恵病院 野村内科循環器科 いぶり腎泌尿器科クリニック さかた歯科医院
---------	---

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、開設以来8年が経過しており、事業所のケア理念に基づいて、地域での生活の継続を支援している。利用者の生活が穏やかに安定しており、開設以来就業を継続している職員も複数在籍している。運営推進会議の取り組みに伴う地域交流、利用者その人らしい生活の実現などの実践について工夫している。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価で今後取り組みを期待したい項目とされた部分は、職員による改善に向けた検討を行い、具体的な実践につなげている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、職員が業務の振り返りを含めて実施している。職員各自が今後に向けて取り組みが必要なことを検討し、実践に向けての工夫に努めている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は定期的開催し、全職員が参加できる体制であり、会議録は事業所内で回覧し、会議で話し合った内容を職員は確認ができる。会議では、災害時の対応や地域における活動について具体的に話し合い、地域の活性化に努めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会を組織しており、会議の中で事業所と運営に対する意見や要望の意見交換や話し合いを行っている。個別の要望事項は、面会時やカンファレンス時に確認し、苦情についてもマニュアルに基づいて対応を行っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	事業所周辺の利用者がおり、地域住民が日常的に利用者を訪問している。事業所で飼育している犬の散歩の際には、近隣住民と挨拶を交わしている。また、町内会にもユニット毎で加入し、町内会行事を事業所内で開催するなど交流を深めている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「基本理念」と「ケア理念」に分けた、地域で生活することを前提とした事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念達成に向けて、職員は日常的に話し合い、職員間での理念の共有及び実践につながっている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所周辺の町内からの利用があり、利用開始後に近隣に居住する友人が利用者を訪問するなどの交流がある。事業所で飼育している犬の散歩の際などには、住民と気軽に挨拶を交わしたり、町内会の盆踊りを事業所で行うなど、地域と密接な交流を行っている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価を実施し、業務全般を振り返り、各自が今後の取り組みに対して必要と感ずることについて話し合い、具体的な実践につながるよう工夫している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的開催している。会議では、防災の取り組みや地域での活動など事業所の運営に関わることを話し合っている。また、会議内容を全職員に回覧し周知を図ると共に、職員全体が参加する会議と合同で行う場合もあり、職員と推進委員との間で活発な意見交換を行っている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所の運営上の相談事など、日常的に行政担当職員と行き来する体制にあり、連携を図りサービスの質の向上につながるよう努力している。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	広報誌を作成し、家族等に事業所における利用者の日常の生活の様子を伝え、個別に通信欄を設けて具体的な事柄を記載し様子を報告している。金銭管理については、定期的に出納管理簿を家族に送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を組織しており、家族会会議の中で事業所運営に関わる要望などが表出できる体制にある。また、個別には面会時や必要時には電話などにより、利用者家族の意見を聞いており、その内容を全体会議などで検討し、運営に反映できるように努力している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動及び退職はあるが、開設当初からの職員も数名が勤務しており、ユニット間でのなじみの関係を築いているなど、影響への配慮している。また、退職及び異動した職員もその後も継続的に事業所を訪問するなど、利用者へのダメージを防ぐよう努めている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は認知症関連の学会などに複数在籍し、そこで得た情報を職員へ随時伝えたり、職員の資質の向上につながる研修会を開催するなど、サービスの質の向上に努めている。また、職歴の長い職員が、新人職員への教育に携わっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の市町村で運営している事業者と広域連合会を通じて交流を行っている。会では、事業所の質の向上に向けた話し合いや研修会の開催、事業所の相互訪問、職員の交流会の開催などを行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	地域における生活と利用開始後の生活が変わらないことに配慮しており、利用者や家族の周辺環境等を把握し対応している。また、利用待機者も多いが、定期的に連絡を取り、身体状況や介護状況の変化などの確認を行っている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を人生の先輩として尊敬し、共に過ごすことに心がけている。また、利用者の言動から学ぶ姿勢を持ち、相互に信頼関係を築くことに努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の個別性を重視し、個人の自由を大切に支援している。また、身体能力や意向の確認のために、アセスメントを多角的かつ重点的に実施している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケア担当者、計画作成者、介護スタッフが申し送りなどで、日常的に利用者について検討を行っている。アセスメントは多職種、多方面から実施し、利用者の状態を適切に把握するよう工夫している。アセスメント後に利用者や家族からの介護に対する希望を家族から聞き、介護計画に明示している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一度、定期的に見直しを行っている。また、利用者の状態や介護度が変化した場合や退院時に評価を行い、見直しについて検討し、必要な場合には見直している。定期的な見直しの他にも、日常的に評価を実施し、随時カンファレンスを基に介護計画について内容の追加や削除を実施している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同一法人が運営する介護保険事業所と日常的に交流を行っている。また、利用者や家族に対する支援、対応が可能な範囲で行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診の際には受診結果報告書を記入し、受診の状況を職員で共有している。また、この報告書で家族へも受診の結果について報告を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に向けた事業所の対応の方針について、利用開始時に利用者と家族に説明を行っている。利用者の病状に応じて早期に医師、家族と話し合い方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、プライバシー確保や人権の尊重に配慮し、利用者と接している。また、プライバシー保護などについての内部研修や学習会を実施している。職員は事業所採用時に就業中における個人情報の取り扱いについて文書で誓約書を取り交わしているなど、個人情報の取り扱いに対して配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ケア理念にも「ひとりひとりのペースに合った」という表現があるように、職員は、利用者が希望に沿った一日を過ごせるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の大半が、利用者の希望のものとなり、利用者の好き嫌いに配慮し、食事の副菜に工夫している。また、不定期ではあるが「出前の日、外食の日」などがあり、利用者にとって楽しみとなっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	介護計画に沿って入浴支援を実施している、また、毎日入浴の準備をしておき、利用者の突然の希望にも対応が可能な体制にある。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用開始時、アセスメントで利用開始以前の生活歴について利用者や家族から聞き取り、情報を活用し、利用者の意思に沿って身体能力に応じた役割を決めている。利用者が体調不良などで役割を行えない場合は、他の利用者が実施したり、職員が対応している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所の近隣の散歩や商店での買い物など、日常的な外出支援を利用者の希望により行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日常的に開錠している。夜間は防犯上、玄関を施錠をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災計画に沿って、定期的に夜間想定災害訓練の実施や地震災害対策訓練及び準備を行っている。また、消防署主催の消防フェスティバルへ参加し、災害に備えた各種技術の向上や救急救命講習に全職員が参加し、日常的に災害に備えた対策を行っている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ユニット毎に利用者の食事と水分摂取などの記録を残している。記録を基にして、利用者の栄養状態を職員全体会議で検討し、食事摂取量が低下してきたり、水分摂取が少ない利用者に対して、各種食事形態の変更やゼリーの提供などを行っている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、利用者にとって居心地の良い空間となっており、思いのままに過ごすことができる。小鳥、犬、ウサギなどを事業所内共用空間で飼育しており、利用者の楽しみとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が、思い出の品々を持ち込み、安心して暮らせるよう工夫をしている。		

※  は、重点項目。